

十年早い話

昭和38年といえば、今から14年前のことになる。当時は水俣の水銀中毒や神通川のイタイイタイ病が社会問題になっていたが、公害問題は国土全体のものとまでは考えられていない時代であった。私は農林水産技術会議の総務課にいて、そろそろ予算の仕事が忙しくなった頃だから、秋口でゞもあったらうか。旧友の福永君が農林省へ訪ねて来てくれたことがある。彼は現在、理化学研究所で研究主任をしているが、当時は西ヶ原の農業技術研究所にいた。小学校から大学まで同じ校門を出て来たという縁のある友人である。

福永君の話というのは、残留農薬問題を研究する専門の施設をつくれということであった。工場や鉱山の廃棄する特殊な化学物質の農害についてのみが、現在公害問題とされている。しかし、我が国の農業が使用している農薬は、毎年種類・数量ともにふえつづけている。農作業省力化のための止むを得ないことではあるが、公害という観点から再検討しておかねば大変なことになるというのである。専門的な立場から縦横に問題点を解きほぐす熱を帯びた説明は、聞けば聞く程、彼の意見の正しさとその先見性に感銘をうけた。しかし、一行政官としての私の立場に戻って考えてみると、当時の農林省の置かれている立場、財務当局の立場、これらを取り巻く環境があった。結局、私は断念した。

農薬について、未だ忘れられない苦い思い出である。そして、福永君には、今でもすまないと思っている。

財団法人 中央果実生産出荷安定基金協会

専務理事 松田寿郎

目次

(第10巻第11号)

年頭の辞	2
＜農林水産技術会議 川嶋良一＞	
新春雑感	3
＜農薬工業会会長 吉田 豊＞	
新年の心構え	3
＜日本植調協会会長 戸荻義次＞	
昭和51年度春夏作野菜・花き関係除草剤(材),生育調節剤(材)試験成績概要	5
＜野菜試験場 西 貞夫＞	
I. 除草剤	26
A. 野菜類	26
1. 野菜一般	26
2. キャベツ	27
3. ハクサイ	29
4. レタス	30
5. ネギ	30
6. タマネギ	31
7. アスパラガス	33
8. トマト	33
9. ナス	34
10. キュウリ	35
11. スイカ	35
12. 露地メロン	36
13. カンピョウ	37
14. イチゴ	37
15. ダイコン	38
16. ニンジン	38
17. ゴボウ	39
18. サトイモ	39
B. 花き・花木類	39
II. 除草資材	42
III. 前回末検討除草剤	42